

コミセングラウンド利活用構想

平成27年(2015年)2月

コミセングラウンド利活用検討委員会

目次

1. 利活用構想の概要	1
(1) 利活用構想の趣旨	1
(2) コミセングラウンド利活用検討委員会	2
2. コミセングラウンドの概要	3
(1) コミセングラウンドの概要	3
(2) コミセングラウンドと周辺の現在の利用	4
1) コミセングラウンドの現在の利用	4
2) 周辺の現在の利用	4
(3) コミセングラウンドの課題	6
3. 利活用の方針	7
4. コミセングラウンドの利活用	8
(1) ゾーニング	8
(2) 活用イメージ	10
1) スポーツゾーンの活用イメージ	10
2) 交流ゾーンの活用イメージ	11
3) 冬の活用イメージ	12
4) 自然体験・環境教育の場のイメージ	13
5) あしりべつ川の活用の拠点のイメージ	14
(3) 活用カレンダー	15
5. 施設の整備	16
(1) (仮称) コミセングラウンド・パークセンターの設置	16
(2) 駐車場の整備	17
(3) グラウンドの整備	18
6. 運営	19
7. 整備スケジュールのイメージ	20
8. 参考資料	21
コミセングラウンド利活用検討委員会名簿	21
(仮) コミセングラウンド利活用構想 利活用のイメージ	22

1. 利活用構想の概要

(1) 利活用構想の趣旨

札幌市清田区清田1条2丁目の土地（通称「コミセングラウンド」）は、当初学校用地として土地開発公社が取得したもので、その後40年近くにわたり地域のスポーツ広場として広く区民に活用されてきたが、平成25年12月、公社廃止に向けた準備の一環で公社から札幌市に買い戻され、市の所有地となった。買戻し後の市の方針としては、事業化の目途がたっていないため、将来的には売却予定となっている。

しかしながら、コミセングラウンドの土地は、清田区の中心にあり、清田公園、清田区民センター、清田緑地に隣接している区の貴重な財産であり、活用にあたっては、公平な利用調整、環境保全など様々な活動を、区民が主体的に行ってきた場所である。

そこで、清田区のまちづくりに欠かせない場所であるこの土地が、事業化されずに売却されることはできるだけさけないものであることから、地元として、公共的な利活用を検討する「コミセングラウンド利活用検討委員会」を立ち上げ、「清田区民総意」としての利活用案を策定することとした。



■コミセングラウンドと北野通

(2) コミセングラウンド利活用検討委員会

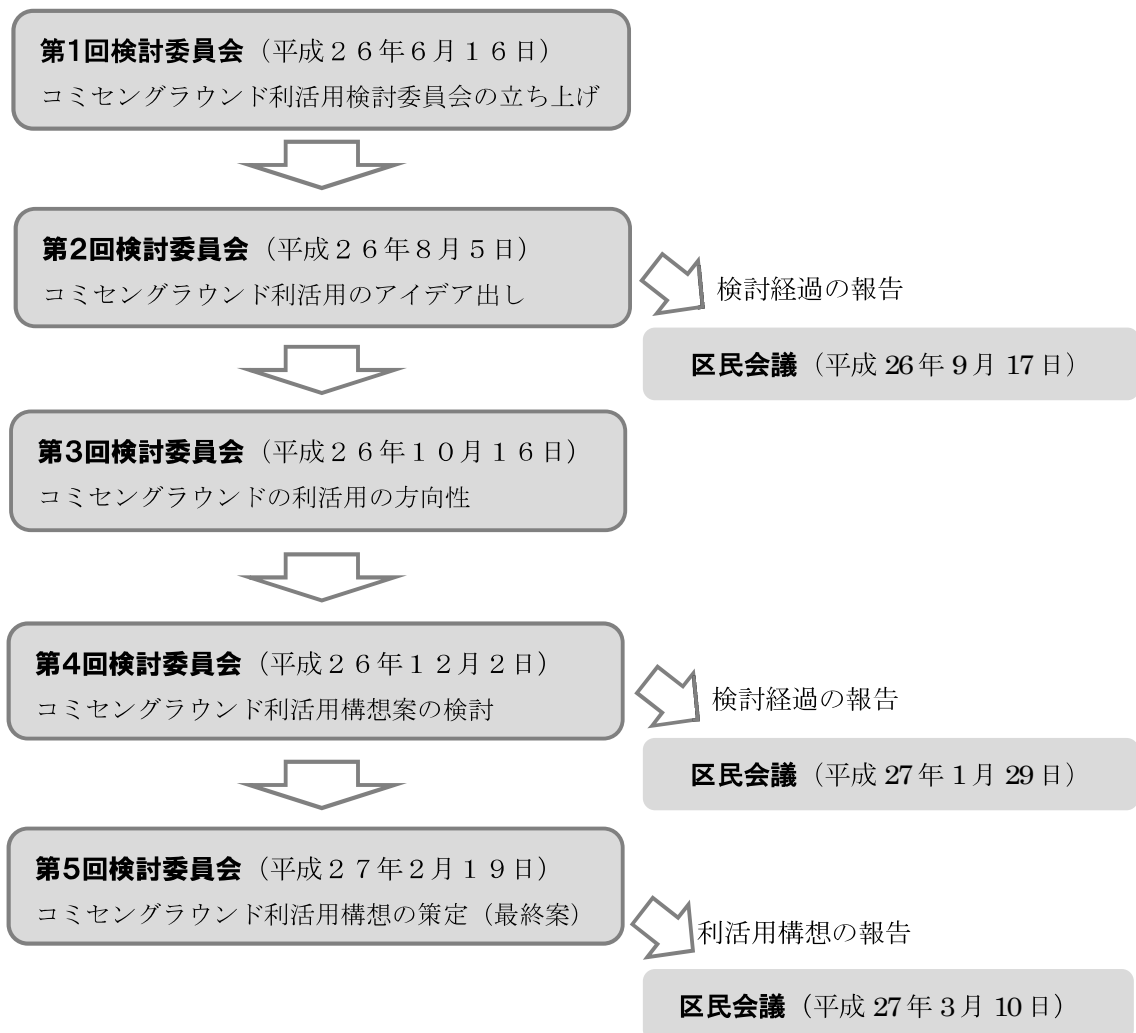
コミセングラウンドの公共的な利活用を検討するため、グラウンドの利用関係者や地元住民による準備会が組織され、検討委員会立ち上げのための委員の選定や、委員候補者への声掛けが行われた。その結果、清田区内の各種団体、大学、企業の代表者等が集まり、「コミセングラウンド利活用検討委員会」が発足した。

コミセングラウンドの利活用は、「清田区のまちの顔づくり（拠点性）の検討」と密接に関わるものであることから、検討委員会で検討した内容は、「きよたまちづくり区民会議」に報告しながら進めた。

■準備会の開催状況

開催状況	内 容
第1回準備会（平成26年2月26日）	検討委員会委員の選定、委員候補者への声掛け、委員会の検討スケジュール及び運営方法等の確認
第2回準備会（平成26年3月18日）	
第3回準備会（平成26年5月19日）	

■コミセングラウンド利活用検討委員会の検討経過



2. コミセングラウンドの概要

(1) コミセングラウンドの概要

コミセングラウンドは、札幌市清田区清田1条2丁目にあり、清田地区と北野地区の境目に位置している。北東は北野通をはさんで清田高校と、北西はあしりべつ川と、南西は清田公園と、南東は清田緑地と接する面積約1.7haの土地である。

清田緑地以外の方向は開放的で、清田公園側はフェンスで囲まれており、あしりべつ川と北野通との境界はガードパイプで囲まれている。また、コミセングラウンドは北野通よりも数メートル低くなっている。

コミセングラウンドは、清田区役所から徒歩で5分～10分程度の場所で清田区民センターやあしりべつ郷土館とも隣接しており、清田区民が数多く訪れる場所にある。

■位置図



(2) コミセングラウンドと周辺の現在の利用

1) コミセングラウンドの現在の利用

コミセングラウンドには現在 2 面の野球場がある。野球場は、清田区の少年野球の練習や試合、ママさんソフトボールの大会などで利用されている。

コミセングラウンドは、区民や清田区のチームが優先的に利用できる野球場であり、毎年少年野球や社会人の野球の試合が数多く行われている。

そのほか、平成 24 年 8 月には清田区防災訓練が行われ、消防署や自衛隊、警察などの関係機関、各町内会の住人、近くの清田小学校の児童ら計約 450 人が集まった。

冬期間は、雪合戦なども行われ、にぎわっている。

2) 周辺の現在の利用

コミセングラウンドの南東に接する清田緑地は、緑豊かな中に散策路が整備されており、春にはミズバショウなどが見られるほか、夏にはたくさんの緑に囲まれて森の息吹を感じることができる憩いの場所になっている。

また、南西に隣接する清田公園には、野球場やテニスコートがあり区民以外に札幌市内からスポーツを楽しむために多くの人を訪れている。

さらに、コミセングラウンドは、清田区のシンボルでもあるあしりべつ川にも接しており、河畔では、パークゴルフや散策を楽しむ姿が見られる。

■ コミセングラウンドとその周辺の位置図





■ソフトボール大会で使用されている



■地域の防災訓練の場として活用されている



■野球大会で使用されている



■冬期間は雪合戦などが行われている

(3) コミセングラウンドの課題

コミセングラウンドの現状の課題として以下のことが考えられる。

●スポーツ以外の活用が少ない

- ・広い敷地であるが施設が未整備であるため、スポーツ以外での活用が少ない。

●スポーツ利用の課題

- ・野球場を2面確保するには狭い敷地である。
- ・スポーツで活用する場合にも観客席がなく、不便である。

●冬の利用

- ・雪合戦以外の活用があまりされていない。

●設備・整備の課題

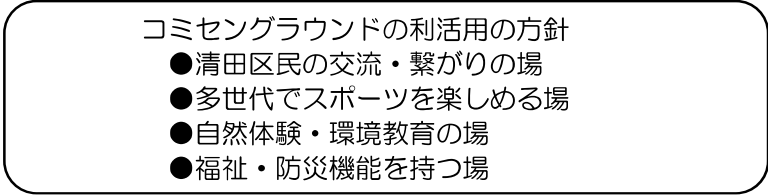
- ・駐車場がなく、利用者は区民センターの駐車場を利用したり、路上駐車している。
- ・近くにトイレが少ないので、不便である。
- ・清田緑地とグラウンドの間が窪地のため湿地となっており、フェンスが倒れかけている箇所がある。
- ・グラウンドとして利活用する場合にも、水はけが悪いなどの課題があり、地盤改良を行うことが求められる。

■コミセングラウンドの課題



3. 利活用の方針

コミセングラウンドの立地条件や現在の利用状況、周辺施設との関係、今後の活用を考えた場合、利活用の方針として以下の4つを設定する。



●清田区民の交流・繋がり場

- ・区役所や区民センターに近いことなどから清田区民の交流の場として活用する。
- ・マルシェや町内会のイベント、ドッグラン、高齢者の交流など、さまざまな人が利用できる憩いの場にする。

●多世代でスポーツを楽しめる場

- ・スポーツの場として親しまれて活用されていることから、今後も清田区民が多世代でスポーツを楽しめる場として活用する。
- ・野球やサッカーだけでなく、高齢者や障がい者のスポーツやランニング、サイクリングなどのさまざまなスポーツができる拠点にする。

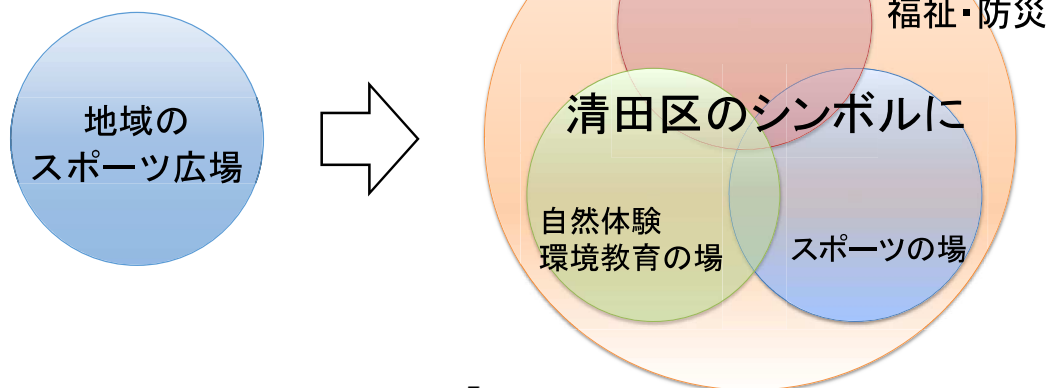
●自然体験・環境教育の場

- ・隣接する清田緑地やあしりべつ川とのネットワークを確保して、自然散策などができる場として活用する。
- ・あしりべつ川、清田緑地と一体的になった自然あふれるエリアにする。

●福祉・防災機能をもつ場

- ・バリアフリーを充実させて誰もが活用できる場にする。
- ・将来的には施設の充実を図り、障がい者スポーツの場となるようにする。
- ・防災訓練などを行い、区民のつながりにより災害への対応を高める場にする。
- ・防災備蓄庫を兼ねた管理施設を整備する。

■利活用拡大のイメージ図



4. コミセングラウンドの利活用

(1) ゾーニング

コミセングラウンドは、野球やソフトボールで活用する「スポーツゾーン」とサッカーや交流イベント、フリースペースとして活用する「交流ゾーン」の2つに分けて活用する。

また、計画地の北側には管理施設を設け、利用しやすい空間にする。

コミセングラウンド及び管理施設は、隣接する清田公園や清田緑地、あしりべつ川を利用する人の拠点となるような場とする。

●スポーツの場

- ・スポーツゾーンは、バックネットなどの施設を設けたグラウンドとして整備する。

●交流の場

- ・交流ゾーンは、芝面とし、サッカーなどのスポーツに活用できるようにするほか、マルシェを始めとした清田区の交流イベントの場としても活用できるようにする。

●管理施設

- ・計画地の北側には、トイレや管理施設などを兼ねた管理棟を設ける。

■コミセングラウンド利活用のゾーニング



●周辺と一体となった場

- ・清田緑地と隣接する箇所は、一体的な空間となるように自然に配慮しながら排水施設などの整備を行う。
- ・あしりべつ川のパークゴルフコースや散策路と往来ができるようにして、パークゴルフやランニングを楽しむ区民の休憩の場となるようにする。

■周辺と一体となった場のゾーニング



(2) 活用イメージ

1) スポーツゾーンの活用イメージ

スポーツゾーンは、清田区内の少年野球チームや社会人チーム、ソフトボールチームの利用を中心とする。

バックネットやフェンス、ベンチを整備するほか、グラウンドの排水施設や水道施設を設ける。

また、自然エネルギーなどによる夜間照明を導入してグラウンドの利用率を上げることも考える。



■少年野球の利用イメージ



■ソフトボールの利用イメージ



■ソフトボールでの利用イメージ



■社会人の野球チームによる利用イメージ



■障がい者野球での利用イメージ

2) 交流ゾーンの活用イメージ

交流ゾーンは、区民の交流の場としてマルシェの開催や町内会のイベント、多世代交流、野外コンサートなどを実施して活用する。

活用にあたっては、イベントごとに実行委員会などを組織して活用する。

また、保育園のレクリエーションの場としても活用する。

イベントなどがない場合は、サッカーなどのスポーツにも利用する。



■マルシェの利用イメージ(きよたマルシェ) ■イベントの利用イメージ



■障がい者サッカーの練習など



■芝生での利用イメージ(自由な遊び場)



■障がい者もお年寄りも参加しやすいイベントのイメージ



■障がい者やお年寄りも参加しやすいレクリエーションのイメージ

3) 冬の活用イメージ

冬は、敷地の外周などを歩くスキーコースとして活用するほか、雪合戦の場としても活用する。

交流ゾーンでは、雪まつり、雪像コンテスト、かまくら体験などのイベントのほか、清田区で進めているアイス・スノーキャンドルイベントの拠点としても活用する。



■冬の利用（かんじきウォーク）のイメージ



■歩くスキーのイメージ



■アイス・スノーキャンドルのイメージ



■雪合戦の場としての利用イメージ



■障がい者クロスカントリーの利用イメージ

4) 自然体験・環境教育の場のイメージ

コミセングラウンドを拠点にして、あしりべつ川や清田緑地の自然を活かした子どもの自然体験や環境教育の場とする。

自然体験や環境教育の主体は、NPO 法人などに担ってもらう。



■ 清田緑地と連続した環境教育の場として活用するイメージ



■ 清田緑地と連続した環境教育の場として活用するイメージ



■ あしりべつ川と連続した川の体験の場として活用するイメージ



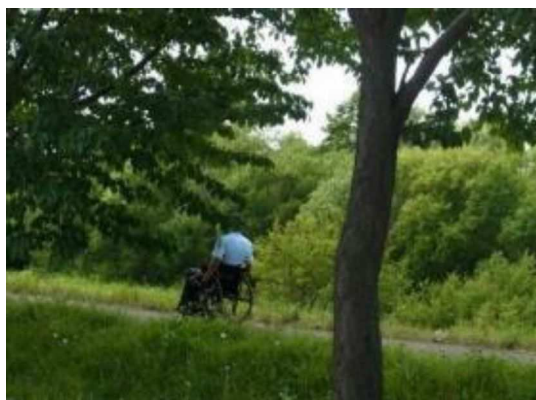
■ 清田緑地と連続した自然体験の場として活用するイメージ

5) あしりべつ川の活用の拠点のイメージ

あしりべつ川の堤防沿いをランニングやサイクリングを楽しむ場合の拠点として活用する。現在も、車椅子であしりべつ川を散策する区民がいることから、こうした利用者にも配慮する。



■あしりべつ川のイベントなどの集合場所や拠点として活用するイメージ



■あしりべつ川と合わせて、バリアフリーの空間となるようにする



■あしりべつ川と連続したジョギングやマラソンに利用するイメージ



■あしりべつ川と連続したサイクリングロードとして利用するイメージ



■あしりべつ川と連続した車いすマラソンに利用するイメージ

(3) 活用カレンダー

コミセングラウンドの利活用イメージを季節のカレンダーとして整理すると下表の通りとなる。年間を通して多様な利活用となることが想定される。

■コミセングラウンド利活用カレンダー

	活用	主体
4月	コミセングラウンドの春の清掃	活用する全団体
5月 ～	少年野球・社会人野球 ソフトボール	野球チーム・ソフトボールチーム
	あしりべつ川：ランニング、サイクリング	愛好会など
	清田緑地：自然観察会	NPO 法人など
8月	野外コンサート	実行委員会など
9月	きよたマルシェ	実行委員会など
10月	清田緑地：秋の自然観察会	NPO 法人など
	秋の清掃	活用する全団体
1月	歩くスキー・雪合戦	愛好会など
	アイス・スノーキャンドル	実行委員会など



■春や秋には、区民や利用団体で清掃を行う



■住民や利用団体による芝生の手入れを行う

5. 施設の整備

(1) (仮称) コミセングラウンド・パークセンターの設置

コミセングラウンドには、区民の交流の場となる管理施設「(仮称) コミセングラウンド・パークセンター」を設置する。

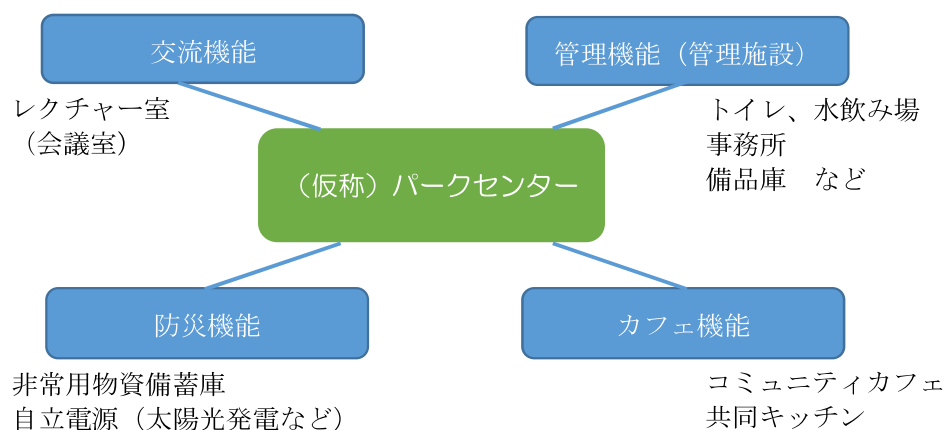
パークセンターには、管理事務所やスポーツ用具、施設の管理の道具などを保管するために備品庫を設ける。

また、利用者にとって欠かせない施設であるトイレや水飲み場を設けるほか、憩い・交流の場となるようにコミュニティカフェなどを配置する。

また、清田区の防災訓練の場としても活用することが想定されることから、防災施設としての機能も兼ねる。

太陽光発電を設置し、災害時でも電源が確保できるようにし、災害時の非常用物資の備蓄庫としても活用する。

■ (仮称) コミセングラウンド・パークセンターの機能



(2) 駐車場の整備

今後、コミセングラウンドの利用が増えることを考え、駐車場・駐輪場の整備を行う。駐車場と駐輪場の整備は、優先度が高く速やかな整備が求められる。

駐車場の場所の候補は、以下の3か所が想定される。

- コミセングラウンドの北の三角地の管理施設の近く
- 清田緑地の北側のコミセングラウンドに隣接しているエリア
- コミセングラウンドと清田公園の間の道路沿い



■車椅子の利用者にも配慮して駐車スペースを設ける



■子どもの利用も多いことから駐輪場を整備する

(3) グラウンドの整備

スポーツゾーンは、野球やソフトボールの利活用のために、グラウンド整備を行う。

グラウンドは野球場の最小規模を確保できるようにする。また、水はけを良くするために排水施設（暗渠）を整備し、適した表層となるように土を入れる。

そのほか、バックネットやベンチ、散水施設や水飲み場なども整備する。

さらに、コミセングラウンド北東の北野通に面したエリアは、北野通よりも数メートル低くなっているため、高低差を活かした緩やかな坂の観客席の整備を検討する。



■観客席のイメージ



■観客席のイメージ



■バックネットなどの施設を整備する



■野球場としてグラウンドを整備する

6. 運営

現在は、地域主体で組織する「清田公園体育施設利用調整委員会」が夏期のコミセングラウンドの利用調整を行っている。

しかし、今後、区民をはじめ様々な団体が利用するためには、サポート体制が必要である。また、想定している施設には、管理者が必要となる。

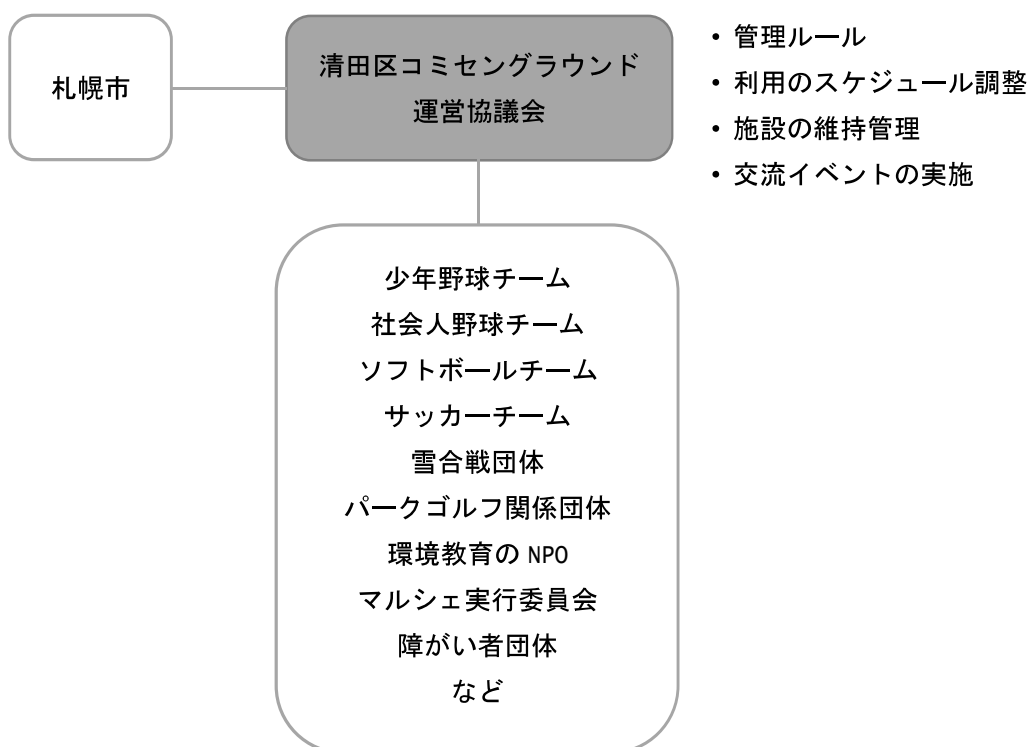
こうしたことから、さまざまな利活用を図るには、コミセングラウンドを運営管理する体制（組織）を構築することが必要である。

そこで、「清田区コミセングラウンド運営協議会」を組織して、ルールづくりや通年の利用調整を行うことを検討する。

協議会は、野球やソフトボールのチームや、サッカー、雪合戦団体のほかに、パークゴルフ関係者、環境教育を行う NPO など、関係する団体の参画を想定し、利活用の調整を行う。

そのほか、交流イベントの実施や、春や秋の清掃などを協議会で行う。

■運営体制のイメージ



7. 整備スケジュールのイメージ

計画地の整備及び利活用は、以下に示すように短期・中期・長期に分けながらニーズに合わせて進める。

■整備スケジュールのイメージ

	短期	中期	長期
スポーツゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ●イベント ・町内会のイベント ・マルシェ 	グラウンドの造成 バックネット・フェンス・ベンチ	清田緑地との接続 観客席
交流ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・アイス・スノーキャンドルなど ●多世代交流 ・保育園のレクリエーション ・高齢者の交流の場 ●自然体験・環境教育 ●冬の利活用 ・歩くスキー 	造成（芝面）	あしりべつ川との接続
管理施設等	駐車場・駐輪場	水飲み場	トイレ 防災施設 コミュニティコーナー イベントステージ
実施主体	町内会、実行委員会、 NPO法人など／札幌市	町内会、実行委員会、 NPO法人、スポーツ団体など／ 札幌市	札幌市

8. 参考資料

コミセングラウンド利活用検討委員会名簿

コミセングラウンド利活用構想は、以下のコミセングラウンド利活用検討委員会委員によって検討した。

■コミセングラウンド利活用検討委員会委員

氏名	職名等
会長 大形 修三	里塚・美しが丘地区町内会連合会会長
副会長 住吉 誠一	清田公園体育施設利用調整委員会会長
牧野 晃	清田地区町内会連合会会長
小林 莊子路	清田区スポーツネット会長
平目 伸二	清田区スポーツネット副会長
佐藤 博之	全清田軟式野球協会会長
須貝 聖	清田区少年軟式野球連盟事務局長
長南 弘子	清田区女性部連絡協議会
林 進一	清田区青少年育成委員会連絡協議会議長
石川 孝子	(公社)札幌市子ども会育成連合会清田区支部支部会長
北川 洋一	清田区PTA連合会会長
宝福 豊	北海道コカ・コーラボトリング(株) 広報・CSR推進部長
斎藤 忠明	清田地区商工振興会会長
池田 正彦	札幌市サッカースポーツ少年団連盟清田区代表理事
小笠原 美登里	豊平区ママさんソフトボール連盟会長
藏満 保幸	札幌国際大学スポーツ人間学部学部長
橋 文也	ハローENJOY札幌施設長
浅香 博文	(一社)札幌市障がい者スポーツ協会会長
大西 潤子	清田H遊会
笥 祥子	清田区民センター館長
佐藤 真理子	里塚・美しが丘地区センター館長

(仮) コミセングラウンド利活用構想 利活用のイメージ

